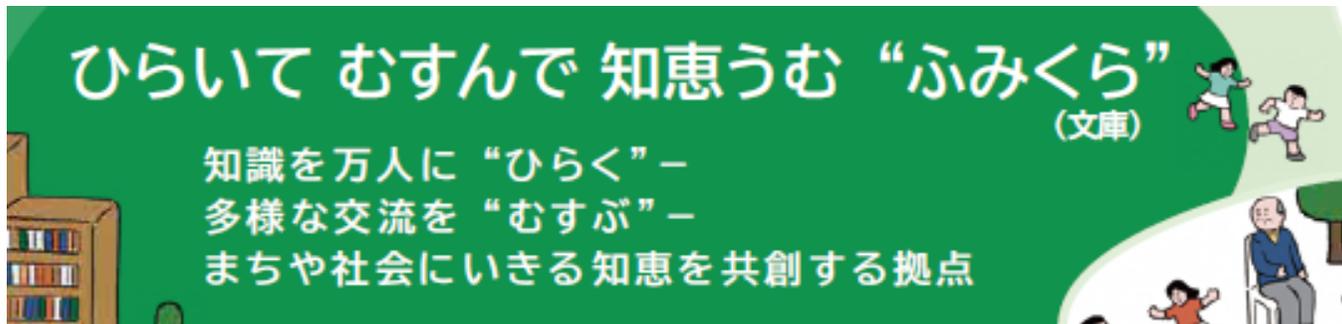


第12回鎌倉市本庁舎等整備委員会 資料

令和5年（2023年）4月

基本構想の振り返り

ビジョン - 基本理念 -



市庁舎現在地利活用のイメージ

知識をひらく図書館と、
手続や相談、防災も支える
行政サービスの提供の場

屋内外でまちとつながり、
まちの移動を支える
オープンスペース、
まちなかの緑と憩いの空間

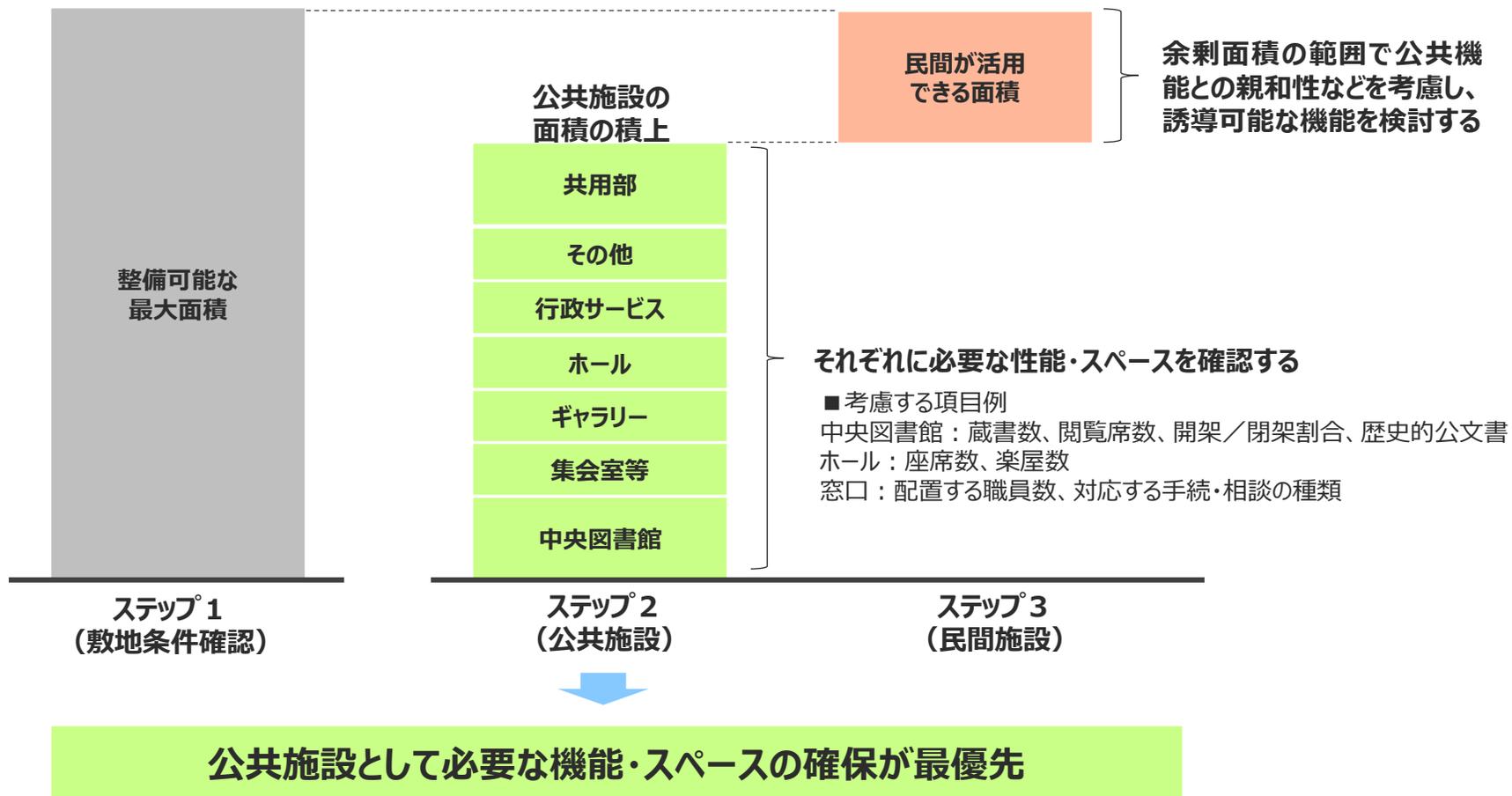


世代性別を超えた交流で、
学び合い、知見を得る
学びと交流の場

公共と民間の併設で、
快適な施設をととのえる
まちにひらかれた
まちと人と情報の結節空間

検討の基本方針 ～ 公共機能と民間機能

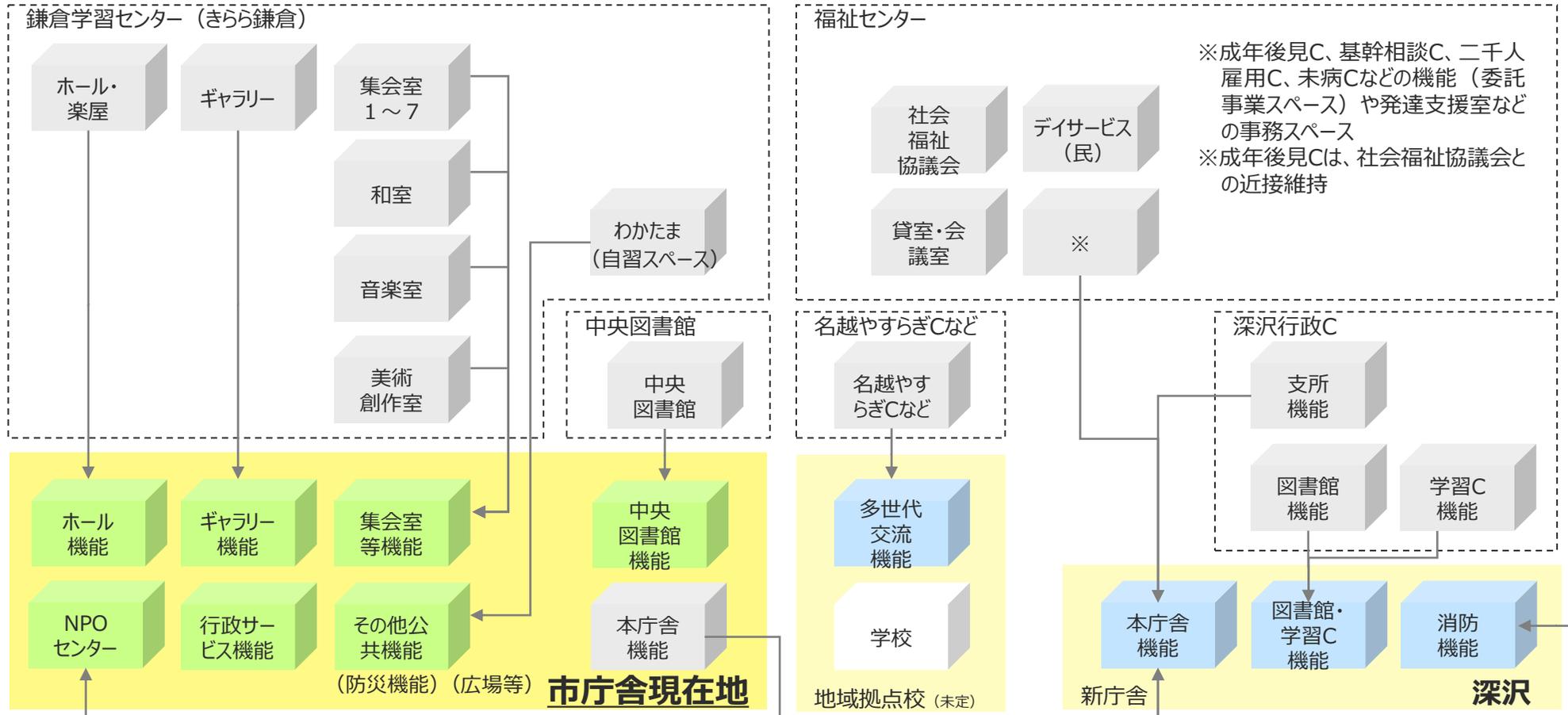
- 公共施設として必要な機能とスペース（規模）を確保することを最優先とする。
- その上で、余剰面積について民間事業者の活用の可能性を検討する。



論点①：導入機能・相乗効果

- 上位計画及び基本構想を踏まえると、市庁舎現在地には、「中央図書館機能、ホール機能、ギャラリー機能、行政サービス機能、その他公共機能（防災機能など）」の導入を前提とする。下図は、これらの整理イメージ。
- これに加えて、鎌倉生涯学習センターの「**集会室等機能**」の導入も加えて検討する。
- その他公共機能として、「歴史文化観光情報発信」、「NPO拠点」、「わかたま」などの導入を検討する。
- ビジョンの具体化・複合化の相乗効果**を検討する。

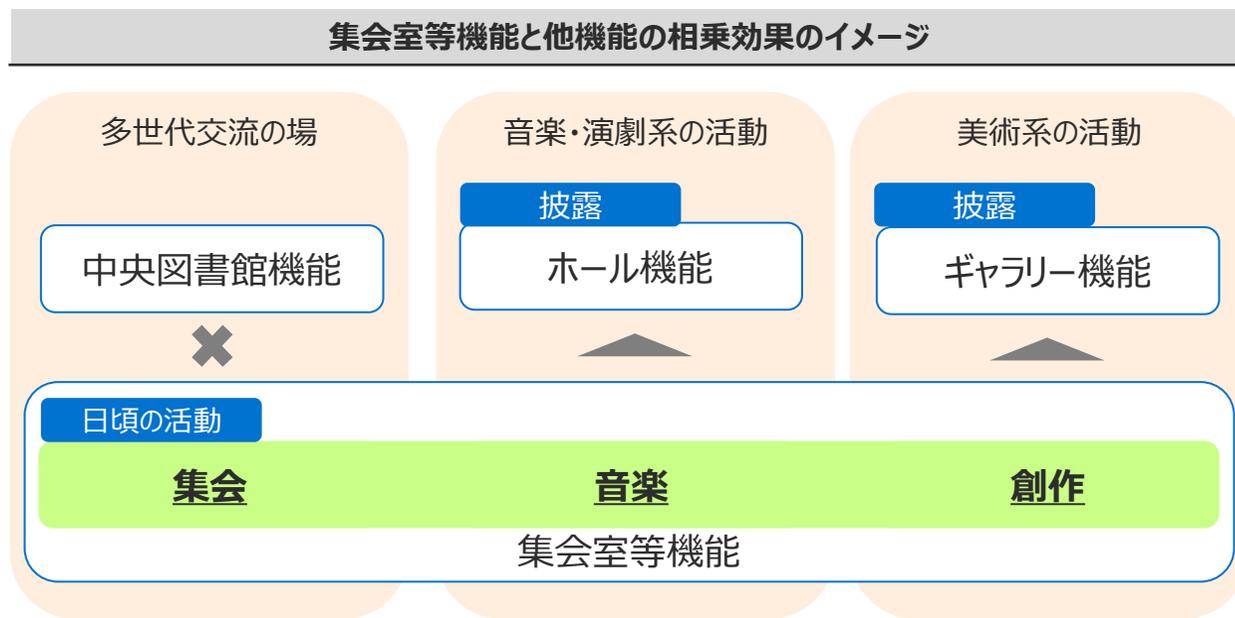
C：センターの略
(以下同じ)



論点①（続き） 鎌倉生涯学習センターの集会室等機能の市庁舎現在地での複合化について

以下の理由から、集会室等機能についても、市庁舎現在地に導入する

- 鎌倉市公共施設再編計画（平成27年（2015年）3月策定）では、生涯学習センター等について、平成65年度までに市内7館から2館に再編する方針が示されている。
- 更に、鎌倉生涯学習センターの機能のうち、集会室、調理実習室、音楽室、和室、美術創作室は、地域拠点校へ複合化する方針が示されている。地域拠点校への複合化は、施設間で類似する集会等の機能を整理し、多世代交流スペースとして集約し、効率的な施設整備を目指すものである。
- 本事業において、鎌倉生涯学習センターの集会室等機能を市庁舎現在地で図書館機能や生涯学習機能と複合化することにより、地域拠点校の整備で目指す効果と同様に複合化によって、効率化を図ることが可能である。
- なお、図書館機能については、図書館ビジョンにおいて「市民参画・協働の図書館」「図書館での活動を通し、必要な情報を発信し、さまざまな世代が交流できる場」など、多世代交流が目指されていることを踏まえると、図書館と集会室等の複合化によって、多世代の交流を促進し、機能連携による相乗効果を生み出すことも可能である。
- 加えて、市庁舎現在地は地域拠点校の候補である御成小学校に隣接しているので、地域拠点校で目指している、学校（児童）との連携による多世代交流の場として活用することも可能である。
- また、鎌倉市公的不動産利活用推進方針（平成30年（2018年）3月策定）では、「鎌倉地域における公共施設の再編による付加価値の創出」とし、市民の生涯学習、活動の拠点化の効果もイメージの上、市庁舎現在地の利活用の基本方針を定めている。

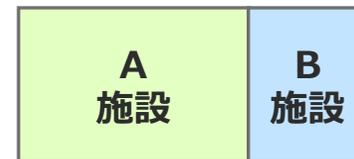


論点②：規模

- ・ 機能性や提供サービスを踏まえて、規模をどうするか。
- ・ 複合化による効率化、複合施設のあり方による面もある（右図参照）。
- ・ 下表は、現状の施設について。
- ・ その他に、防災機能や外部空間も関係。



共用部で明確に区分



共用部を減らし最大限効率化

現在の鎌倉市中央図書館	
諸室名	床面積[m ²]
一般コーナー	約 575
児童コーナー	約 143
ブラウジングコーナー	約 56
AVコーナー	約 58
書庫	約 314
閲覧席数	(133席)
その他	(記載なし)
延床面積	約 2,576m ²

(出典：鎌倉市公共施設再編計画)

蔵書数	約 28万冊
(出典：鎌倉市の図書館)	
1万冊当たり面積	約 93m ²

現在の鎌倉生涯学習センター		
機能名	室名	床面積 [m ²]
集会室	第1集会室 (1F)	約 42
	第2集会室 (2F)	約 18
	第3集会室 (3F)	約 29
	第4集会室 (3F)	約 37
	第5集会室 (3F)	約 85
	第6集会室 (4F)	約 96
	第7集会室 (4F)	約 48
	音楽室 (2F)	約 104
	和室 (3F)	約 96
	美術創作室 (4F)	約 108
その他	わかたまコーナー	約 18
ホール (楽屋、ホワイエ等含む)		約 956
ギャラリー (倉庫、ロビー等含む)		約 616
延床面積		約 5,075m ²

(出典：鎌倉市公共施設再編計画)

現在の各支所 (専有部)	
施設名	床面積[m ²]
腰越支所	約 367
深沢支所	約 366
大船支所	約 330
玉縄支所	約 304

(出典：鎌倉市公共施設再編計画)

NPOセンター (第2分庁舎)	
延床面積	約 119

(出典：本庁舎機能更新に係る
基礎調査報告書)

**防災機能
広場
アクセス
(駐車場等)**

令和5年度の到達目標 ～ 市庁舎現在地の利活用に関する基本計画の策定

- 基本計画を早期に策定する。
- 主な検討事項と検討方法は以下のとおり。
- 施設計画（ハード）に関する検討と事業手法（ソフト）に関する検討に分かれている。

基本計画において定める主な事項			主な検討方法
①導入機能	公共	<ul style="list-style-type: none"> • 公共施設として整備する機能（特に図書館、市民ギャラリー、ホール、窓口以外に導入するか） 	<ul style="list-style-type: none"> • 既存施設調査、上位計画整理、事例調査 • 関係課協議 • 複数案の比較検討
	民間	<ul style="list-style-type: none"> • 積極的に誘導する民間機能 	
②施設規模（主に公共施設）		<ul style="list-style-type: none"> • 機能ごとの面積、公共施設の延床面積 	
③複合化の方針	施設	<ul style="list-style-type: none"> • 公共施設同士の複合化の方針 • 公共施設と民間施設の複合化の方針 	<ul style="list-style-type: none"> • 事例調査、民間事業者ヒアリング • 関係課協議 • 複数案の比較検討
	運営	<ul style="list-style-type: none"> • 公共施設同士の事業連携の方針 • 公共施設と民間施設の事業連携の方針 	
④提供サービスと利用イメージ		<ul style="list-style-type: none"> • 市民へ提供する公共サービスの内容 • 各スペースの使い方のイメージ 	<ul style="list-style-type: none"> • 事例調査、市民対話 • 関係課協議
⑤配置計画		<ul style="list-style-type: none"> • 既存施設の活用有無、公共施設と民間施設の合築有無 • 広場空間の規模と配置、駐車場台数 	<ul style="list-style-type: none"> • 複数案の比較検討
⑥建築計画		<ul style="list-style-type: none"> • モデルプラン（標準的なプラン）の作成 • フロア構成、平面計画、断面計画、立面計画 	
⑦構造計画		<ul style="list-style-type: none"> • 重要度係数、制震／耐震／免震 	
⑧環境計画		<ul style="list-style-type: none"> • ZEB、省エネ・創エネ 	<ul style="list-style-type: none"> • 事例調査 • メリット・デメリットの比較検討
⑨防災計画		<ul style="list-style-type: none"> • 災害時の対応方針、必要諸室、物資 	
⑩事業費概算		<ul style="list-style-type: none"> • 整備費、維持管理費、運営費、借地料など 	<ul style="list-style-type: none"> • 事例ベースに算出、必要に応じて見積徴収 • 借地料は不動産鑑定を実施予定
⑪契約スキーム		<ul style="list-style-type: none"> • 従来方式／DBO／PFI／定期借地、VFM、リスク分担 	<ul style="list-style-type: none"> • 事例調査、事業手法の定性評価・定量評価、民間事業者ヒアリング • 複数案を比較検討
⑫民間の業務範囲		<ul style="list-style-type: none"> • 指定管理の導入有無と導入範囲 	<ul style="list-style-type: none"> • 関係課協議、事業者ヒアリング
⑬運営体制		<ul style="list-style-type: none"> • 指揮命令系統、直営部分の一体的体制 	<ul style="list-style-type: none"> • 関係課協議、事業者ヒアリング

施設計画

手法

スケジュール案

- 推進本部（庁内）の検討を踏まえ、次回の整備委員会を目途に導入機能と施設規模及び複合化の方針を整理する。その後、提供サービスの検討と施設計画の検討を進め、9月末を目途に概算を算出を目指す。
- 基本計画は8月末時点で素案の前編を作成するなど、可能な限り早期に情報を固めることを目指す。

	R4年度	R5年度												
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
施設計画	導入機能・施設規模・複合化方針		サービス・使い方			配置計画・建築計画 構造・環境・防災		概算・工期		調整				
事業手法	手法整理・定性評価		事業者ヒアリング		VFM		調整							
市民対話			実施											
推進本部	#1		#2 #3				#4			#5		#6		
整備委員会		#1		#2			#3			#4			#5	
基本計画作成			構成確定		素案① (前編)		素案② (後編)		パブコメ案作成		パブコメ	パブコメ対応	答申	

推進本部および整備委員会の議題案

- 全5回の開催を予定。
- 第2回、3回は検討内容の確認・協議が主。第4回は基本計画パブコメ案の確認、第5回は答申。

実施時期		整備委員会の内容案		資料
回数	整備委員会	議題案	概要	
第1回	4月5日	基本構想の振り返り	基本構想で定めた内容の復習	基本構想概要版
		基本計画のゴール	基本計画で定める事項を説明	検討事項の一覧
		整備委員会各回の議題案	全5回の実施時期と議題案を説明	議題案一覧
		市民対話の方針	市民対話の目的、時期、方法	市民対話企画案
第2回	(仮) 6月中	導入機能の整理	導入機能の概要説明	説明資料
		施設規模の設定	施設規模の設定と根拠の説明	規模算定資料
		事業手法の抽出	検討対象とする事業手法の説明	事業手法一覧
		市民対話結果速報	実施内容、来場者数など速報の説明	説明資料
第3回	(仮) 9月下旬	施設計画	配置計画、モデルプランの説明	図面
		概算	整備費、維持管理運営費の概算報告	概算説明資料
		事業者ヒアリングの結果	ヒアリング結果の報告	説明資料
		事業手法の評価	定性評価と定量評価（速報値）の説明	説明資料
第4回	(仮) 12月上旬	パブコメ案の確認	パブコメ案の確認	基本計画パブコメ案
第5回	(仮) 3月上旬	答申	基本計画の答申	答申書

市民対話の方針

- 【仮称】鎌倉市役所オープンデーと称して、市庁舎の深沢移転後の、現在地のより良い利活用提案を市民に体験してもらいイベントを市役所で開催する。
- 併せて、市庁舎現在地利活用基本計画の策定に向けた市民アンケート、市民対話の実施を行うことで、取組に対する市民の理解を深めていく。

（【仮称】鎌倉市役所オープンデー）



体験・学びのエリア
本を読んだり、お茶を飲んだり、自分だけの居心地のいい場所を見つけよう。未来のオンライン相談も体験

見つける・発見のエリア
市役所の中（市長室、屋上）を探検。屋上から見える新しい鎌倉のまちの景色を再発見

あそぶ・広場のエリア
市役所の前に一日限定で子ども遊び場が誕生?!

（市民対話） ※検討中の内容を含む

■ タイトル

市庁舎現在地からはじまる「わたしたち（市民）の居場所」づくり

■ 市民対話プログラムの目標

1. 未来の現在地の1階や広場で過ごす市民の姿（こうありたいというかたち）を想像・創造する
2. 公共機能の融合によって市民ができること、市民ができたらいいこと（機能・サービス・体験）を考える

■ プログラム

- 2種類のワークショップ
ゲスト講師による講話、体験型のワークショップ
- アンケート聴取（会場全体を想定）